

# 岡山県立児童会館の存続を求める要望書

岡山県知事 石井正弘 殿

岡山県立児童会館の未来を考える会実行委員会  
代 表 松畑 熙一（NPO法人連塾 理事長）

私たち岡山県立児童会館の未来を考える会は要望します。岡山県立児童会館の廃止については、県民の意見を聞いて、その計画を見直するとともに岡山県の子どもたちの夢と希望を育む同館を存続し、市民協働の観点に立ちNPO等の多くの団体が施設を有効に活用するように要望するものであります。

岡山県立児童会館は、昭和38年に岡山県政90周年記念事業の一環として、青少年の健全育成および科学知識の啓発指導を基本方針として、故三木知事が「岡山県福祉計画」を樹立する中で建設されました。現在も科学展示室とプラネタリウム、児童遊園を備え年間11万人近くもの来館者が訪れ、県民に親しまれています。

このプラネタリウムは年間を通じ県内の校外学習、遠足などに多く利用されており、今後新たに作ると多額の費用が掛かります。

岡山県財政危機宣言を受けてまとめられた構造改革プラン素案に対するパブリックコメントでも、児童会館に関するコメントは1,655件と最も多くの意見が寄せられました。この事はいかに県民の関心も高く存続の要望が強い表れだと感じています。

私たちは岡山県の子育て支援策の中長期ビジョンを策定する中で、県立児童会館の果たす役割を再認識し、児童会館が県下の子育て支援やプラネタリウムなど科学情報発信の拠点となるよう願っています。

未来に羽ばたく岡山の子どもたち夢や希望を育み遊びと文化と交流の拠点、子育て支援の拠点として、この岡山県立児童会館の何だかの形での存続と施設の有効利用を念願し、これを要望致します。

御 名 前	ご 住 所

\* 個人情報について「個人情報の保護に関する法律」及び関連法規を遵守し、適正に取り扱います。